

第5回 新技術発表会 2018 in横浜

注目のNETIS 登録技術を紹介

発表対象は、いずれもNETIS(新技術情報提供システム)に登録された新技術・新工法です。
メーカーなどの担当者が、概要や特長などを紹介します。

日時 2018.6/26 火
13:30~16:40 (受付12:00~)

会場 ラジオ日本クリエイト会議室
横浜市中区長者町5-85
明治安田生命ラジオ日本ビル3F **定員120人**

—— 新技術発表会プログラム ——

13:30~13:55

「全天候型仮設屋根『簡易屋根トラス』」/関西仮設株式会社

13:55~14:20

「土留部材引抜同時充填注入工法」
/協同組合Masters地盤環境事業部会
土留部材引抜同時充填工法研究会

14:20~14:30

休憩(10分)

14:30~14:55

「衝突軽減システム付バックホウ」/コベルコ建機株式会社

14:55~15:20

「ランチブロック工法」/株式会社高環境エンジニアリング

15:20~15:30

休憩(10分)

15:30~15:55

「高分子天然ガス圧接継手工法(エコスピード工法)」
/エコウェル協会

15:55~16:20

「鋼管杭PC被覆防食工法」/P&K Japan株式会社

16:20~16:40

意見交換&お知らせ

申込方法

① FAX.045-651-2671
(裏面の用紙に記載)

② ホームページ(URL)

<http://www.kentsu.co.jp>

参加費

無料

申込期限

2018年6月22日(金)

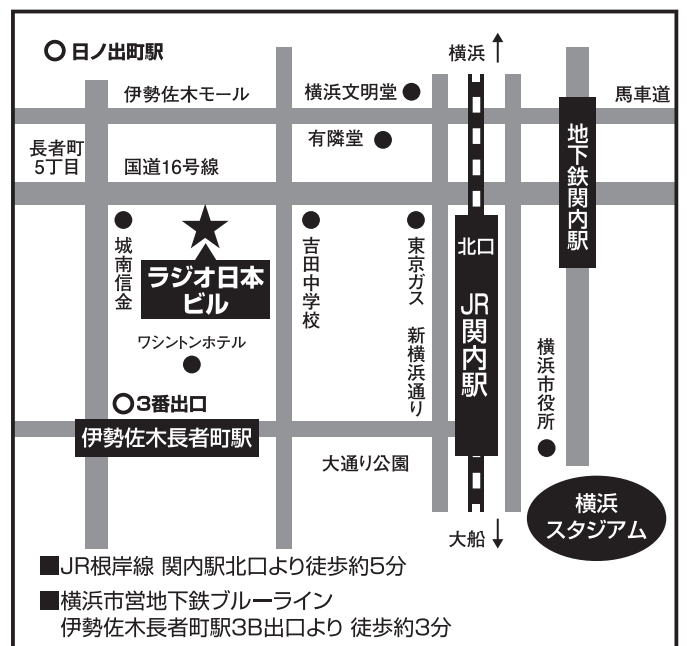
(定員になり次第、締め切らせていただきます)

継続教育

CPD・CPDS認定プログラム

- 建設コンサルタンツ協会(2.5単位)
- 土木施工管理技士会(3ユニット)

アクセス



問い合わせ先

建通新聞社

建通新聞社「新技術発表会」係

TEL.045-681-6024

第5回

新技術発表会

概要

1

全天候型仮設屋根「簡易屋根トラス」

関西仮設株式会社

専用トラス部材と筋交い、布板を主要部材とし外部足場に直接取付け可能にした仮設屋根であり、従来はH型鋼と単管パイプを使用した仮設屋根で対応していた。本技術の活用により仮設屋根の組立解体作業が簡素化され、作業が容易となるため工程の短縮が期待できる。

2

土留部材引抜同時充填注入工法

協同組合Masters地盤環境事業部会 土留部材引抜同時充填工法研究会

土留部材を周辺地盤に影響をほとんど与えることなく引抜唯一の新技術。中でも軟弱地盤や堤防において仮設材にて土留めを行う場合には、本工法は非常に有効な技術。従来、鋼矢板残置を前提としていた民家や地下埋設物などに近接した工事において、コスト削減と事業損失防止に役立つ。

3

衝突軽減システム付バックホウ

コベルコ建機株式会社

深度センサを使用した衝突軽減システムを搭載したバックホウで、従来は衝突軽減システム未搭載型バックホウで対応していた。本技術の活用により、後方走行時および旋回時の轢かれ事故・挟まれ事故を大幅に軽減することが可能となるため、安全性の向上が図れる。

4

ブランチブロック工法

株式会社高環境エンジニアリング

日本古来より城郭の石垣や山間部の棚田などで構築されてきた自然石を用いた石積み擁壁に、コンクリート二次製品「ブランチブロック」を組み合わせて一体化させ、その安定性と施工性の向上を図るとともに、「自然・環境との調和」を発揮できる擁壁を構築する技術。

5

高分子天然ガス圧接継手工法(エコスピード工法)

エコウェル協会

加熱燃料に天然ガスを用いる専用のガス圧接技術で、加熱時の鉄筋接合面の酸化をPSリング(還元材)で防止します。従来は、還元炎で酸化を防止していた。本技術により、接合不良と作業負荷の低減が期待できる。

6

鋼管杭PC被覆防食工法

P&K Japan株式会社

本技術は、無機系炭素繊維入り防食材料を注入材料とするため、炭素繊維で塗膜にクラックの発生する事を抑えるとともに、無機系材料の為長期の耐候性を持ち、アルカリ性のため腐食が進行しない。また、PCカバーを使用することで、耐候性・耐衝撃性に優れ、透明でメンテナンスも容易である。

2018年6月26日(火)

新技術発表会 受講申込書

FAX番号: 045-651-2671

右記、記入の上
上記FAX番号までご送付ください。
申込受付後、受講票をFAXにてお送りします。

企業名(団体名)

所 属

氏 名

※複数の場合は参加される方
全員をご記入ください

住 所 〒

電話番号

FAX番号

E-mail